

羽  
黒  
山  
旧  
記

K
188.59
ハグ







右之條々之古事計以方仍之為後記書記之  
双方之却之有也

貞享元年甲子年七月四日

御用付大坂  
五之能加判

津沼下  
内記下  
行遠下  
古馬  
山崎下  
吉屋下  
加吉下

名取法所依之上作年

為子之屋下有幼來也

中山年以年

新治人 安永

南越原字地埋村

相子 吉永

日下後藏村

吉屋

日松山村

吉屋





此物因色支既不可... 人為方... 後山... 人... 者... 許... 古... 亦... 可... 善... 善... 善...

善... 善... 善...

貞享二年八月七日

安樂院

寺社

伊奈河原

伊奈河原書

如... 同... 安... 貞... 享... 二... 年... 八... 月... 七... 日... 伊... 奈... 河... 原... 書...

八月九日

河内

出羽

伊奈

伊奈拾人...

乃思此之書也

一安其院方之... 相者... 伏令... 獨此... 是... 不... 然...

一... 伏... 新... 可... 別...







2011.5.27

此者乃  
与法  
各行

貞孝子今年九月廿七日

寺社

御幸祈願

乃思在名書心

一今度及申山方年所中一安樂院指上祈狀  
之向修勢能野白心之海日之陽殿拜志山  
之系下之古法之堂別火改粧至入合齋即  
夫古昔若根中一切火之修林也夫七之三後住  
成申山之名之進系所中一之修樹之支配住身  
之支修志以人切火材也夫七之三後寺之奪奪  
新修之金住也書上以火之修修修修修修修  
古之修修修修修修修修修修修修修修修修  
願內修之且修修修修修修修修修修修修修  
修修修修修修修修修修修修修修修修修修

古寺修

生於海之上二代之子也  
自魏三代之後  
中唐長七年  
三代之子也  
宿後執行  
梵文相  
之許休  
院子  
一世別  
之必  
到居  
順因

法建忠

一德山  
中  
至  
之  
行  
十  
分  
其  
梵  
何

行人奪其九... 法山佛... 餘山... 古... 皆... 餘... 三...

貞享五年九月廿七日

大勝寺

寺社御奉行所御

公忠書...

一今度及南... 祈... 主... 祈... 法... 後... 寺... 一先... 古... 古...



一 伊予守 幸高之右衛門尉 以得是伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏

一 伊予守 幸高之右衛門尉 以得是伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏

右之條 幸高之右衛門尉 以得是伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏  
下はたふみおのちも伊予守高之右衛門尉 伏見者 公之伏

元禄元 辰年 十月 廿五日  
東御院  
日知藏  
花房坊  
日知藏  
辰年 十月 廿五日

寺社御奉行所

此は御奉行所

後之世

安樂院

初樂院

一 奉御事之権威御美山伏程乃因宛

御之口乃場之相好也

一 社家之口乃難也 一 是乃好場乃押領

之入也

一 補名御場之百職乃御是又合子又右他云云

後之世也 指障也

古之御儀乃乃御因乃乃乃乃乃乃乃





甲午年行軍一河... 先戴刺... 劫... 可...

新山... 亦... 廣... 官... 市...

甲午年... 出... 家... 又... 十...

是... 少...

甲午年... 華...

越し相立の白なる体方始那を  
りたの系より車より如動也

下 七十一

三白紙の字存るをいし作中

河内守

徳也守

出守守の記に存す

南越の山伏解法は右に記す如く也

院家様より同守守より如く記す

一南越の山伏は去年津浦に控目出初

之の山伏は去年津浦に控目出初

津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

山伏は去年津浦に控目出初

之極乎以方之恒知而中  
右之通之善也... 南極... 恒知... 中... 南極...  
上... 南極... 恒知... 中... 南極...  
... 恒知... 中... 南極...  
... 恒知... 中... 南極...  
... 恒知... 中... 南極...  
... 恒知... 中... 南極...

申  
八月廿六日

羽  
如

心地

判形之事

一... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...  
... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...  
... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...  
... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...  
... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...  
... 判形之事... 判形之事... 判形之事... 判形之事...

如

如

會之半發年林燈句句

行海之人

下

定

一經南師奉旨湯殿公行人火後連下下如先  
例一可成法願也 其亦有初動中行人  
相之修強法願之先年以海之人保之  
守廟家先件心之代中抱之由也  
山火后連下相連之方知也 仍亦得

相云執行

宝前院主海下判

實文九酉己年林廣海日

養海之人

修強奉以奉賦之事

東山方指目之

右任事護流門西及之出先例領書事不之也  
相連去之口也作

權規樣

天正十年正月廿三日

卯判

玉潔坊

修強奉以奉賦之事  
關山伏同衣上上信家由衣金地考先件并  
信後下上信身之衣考先遠背之振上之  
判云之狀也

元長治元年正月朔日

秀忠御判

聖護院殿

一 法乃山伏之社官下分符入公事

一 年約奉職之事 法園本山之山伏社社事

一 信佛慈悲野富果白山靈靈者之通旨元門守

之成有護院社之通旨然法之規之社事

為目之令執社事

一 七云之被幣法初念法性修驗道者未

了社事

一 駿上事并守社事之社事

一 法經法真言

梵字札守卷教宗山伏

社事

一 法名規之伏社事別當職今之為去事

法經法家衣條教場社事之用事

右守社事之伏社事法之規社被社事

右守社事之伏社事法之規社被社事

法之規社被社事

亥

社事

社事

若美中大僧正

修驗道之奉祀名號為目社國之心伏之為  
入奉當山奉祀之名別為之正社後亦生不  
正之混祀以名之矣福極之亦不知名也  
如件

考長於八年亦有  
所書判

至德院神家

河津平家當由本山名別之之正社之  
所修河合相送之次速之不可為修心也  
大河不樣河來平字

修驗道之事從名號如由來社國之心伏

之返入奉當由本山名別之像候條法後  
未生不中之混祀自今心後聖寺以名之  
神神祀之有不知也

考長於八年亦有  
所判

三宮院

指此樣神里云平之字

本山之心伏對真言宗之謂役儀心修心  
祀從真言宗之修事非佛法初合執以  
少事也之也按去石自今心後聖寺此  
之也下不知也

長元六年六月  
三宗鑑  
河

寶平八年 戌 九月十五日

漢本寺字被下之也

謹

一 長元八年先河代古駿厨河批判之旨  
非法之儀斗河信正之知本山軍以事  
賊之事操<sup>和</sup>多苦履弄破之中後當山  
方奥品白川縁が次松山等<sup>也</sup>書状縁造  
事不申之也之能野之然也不重護院

一 河内國代三山操投職之儀の事能給之  
年以事<sup>履</sup>事<sup>主</sup>也今軍お後邊授文也  
上之能野道也也<sup>本</sup>也山伏<sup>事</sup>  
一 漢本寺護院河内國河内縣山田村有寺  
年以事<sup>職</sup>事也其意<sup>事</sup>不<sup>事</sup>也  
以後新規年以事也其意<sup>事</sup>不<sup>事</sup>也

心之也

河内國代三山操投職之儀の事能給之

一 同日寺子山書田山之衣衣沙衣<sup>和</sup>補任  
状<sup>事</sup>改<sup>事</sup>進<sup>年</sup>本<sup>山</sup>飛<sup>河</sup>任<sup>當</sup>山<sup>衣</sup>衣<sup>衣</sup>  
第<sup>山</sup>第<sup>山</sup>也<sup>事</sup>也<sup>事</sup>也<sup>事</sup>也<sup>事</sup>也













山形県立図書館



1-0140242-2